

What Dogs Like 犬が好きなもの

ある日のことです。ピフは“My Dog”(『わたしの犬』)という本を手に入れました。きれいなイラストと一緒に犬たちの特徴や習性が詳しく書かれている本です。ピフはその本を片手に自分の家の愛犬、フロップイーの様子を観察してみることにしました。「犬たちは遊ぶことが好きです」——そうそう、フロップイーも家の中でボールを追いかけて回して楽しそうに遊んでいます。「犬たちは散歩が好きです」——そうそう、フロップイーもお散歩が大好き。キッパーにリードを引っ張ってもらって公園をお散歩しています。「犬たちは眠ることが好きです」——そうそう、フロップイーもキッチンに置いてあるバスケットの中で気持ちよく眠っています。「犬たちは走るのが好きです」——そうそう、フロップイーもお庭でキッパーやチップと一緒にかけっこをしているようです。でも、これはどうかな? 「犬たちはお風呂が好きです」——どうやら、フロップイー、お風呂だけは犬の苦手なようです。お風呂場でパパにごしごし体を洗ってもらっているフロップイーは、泡だらけになってちょっぴり悲しそうな顔をしています。

PG 1:	Dogs like to play.	犬は遊ぶのが好きだ。
PG 2-3:	They like to walk.	犬は歩くのが好きだ。
	Floppy likes to walk.	フロップイーは歩くのが好きだ。
PG 4-5:	They like to sleep.	犬は眠るのが好きだ。
	Floppy likes to sleep.	フロップイーは眠るのが好きだ。
PG 6-7:	They like to run.	犬は走るのが好きだ。
	Floppy likes to run.	フロップイーは走るのが好きだ。
PG 8:	Floppy hates this.	フロップイーはこれが大嫌い。

★Floppy のまねをして I am playing, -- walking, sleeping, running といいながら、そのかっこうをしてみましょう。次に先生が run, sleep とか次々と指示し、皆でそのかっこうをしてみましょう。

★別の動物(猫、馬、鳥、イルカ)のイラストや写真を用意し、“Birds like to sing.”など、それぞれについて言ってみましょう。新しい動詞も覚えられます。英語が出てこない場合は、まずジェスチャーをさせ、それを英語に直して言ってみましょう。

Presents for Dad パパへのプレゼント

ある日パパが入院してしまいました。右足の骨を折ってしまったのです。ママと子どもたちはパパに早く元気になってもらおうと、お見舞いをもって病院にやってきました。広い病室の真っ白いベッドに横になったパパは、みんなの姿をみつけてちょっと嬉しそう。子どもたちはパパのためにもってきたプレゼントを、順々にパパに手渡していきました。チップからは色とりどりの花束を、ビフからは箱に入ったチョコレートの詰め合わせを、キッパーからはおいしそうなぶどうの房を。(おやおや！キッパーったら、せっかくのパパへのお見舞いのぶどうをいつの間にかつまみ食いしちゃったみたい。せっかくのぶどうの房がまばらになってしまっています)さてさて、お次はママの番。ママからのお見舞いは……愛情いっぱいキスが、パパへの何よりのプレゼントだったようですね。

- | | |
|---|----------------------------|
| PG 1: This is for Dad. | これはパパのためにもってきたの。 |
| PG 2-3: This is for you, Dad.
It is a bunch of flowers. | これパパにあげるね。
花束だよ。 |
| PG 4-5: This is for you, Dad.
It is a box of chocolates. | これパパにあげるね。
箱入りのチョコレートよ。 |
| PG 6-7: This is for you, Dad.
It is a bunch of grapes. | これパパにあげるね。
ひとふさのブドウだよ。 |
| PG 8: This is for the best Dad of all. | これはとびきり素敵なパパのため。 |

- ★ プレゼントごっこも楽しいですね。各自、袋か小さな箱を用意し絵で描いたプレゼントの中に入れ、“This is for you !”“Thank you!”の練習を試みましょう。絵を描くかわりにカードや、おもちゃの小物などを利用してもいいでしょう。また、実際にものを手渡す時に、“Here you are.”と試してみましょう。

Top Dog 一等賞の犬

ドッグ・ショウの日がやってきました。野外の会場にはあちこちから集まった人、そしてペットの犬たちがいっぱいです。目玉は一等賞の犬を決めるコンテスト。芝生に一列に並べられた青い台の上には、このコンテストに出場する犬たちが同じ方向を向いておすわりしています。犬たちの様子を見守る飼い主やお客さんたちの中にはキッパーにビフにチップ、そしてママの姿もありました。そう、このコンテストにはキッパーたちの愛犬、フロップイーが出演しているのです！さあ、いよいよ入賞者の発表です。審査員たちがじっくりと審査し、みんなが選んだ優秀な犬たちにメダルが贈られていきます。

まずは第三位！——選ばれた犬は、白い小さな犬でした。

お次は第二位！——選ばれた犬は、大きな大きな犬でした。

そして、ついに一等賞の犬の発表です。フロップイーは選ばれるかな？

さあ、第一位！——一等賞に選ばれたのは……白いスマートな犬でした。フロップイーの顔が悲しげに曇ります。

でも、大丈夫！ドッグ・ショウからお家に帰ったフロップイーには、キッパーとビフとチップから手作りのメダルが贈られたんだもの。そのメダルにはこんな言葉が書いてありました。“Best of all(最高！)”——そう、キッパーたちにとってはいつだって他のどんな犬よりもフロップイーが一番大切なんです。

- PG 1: Look at all the dogs. このたくさんたくさんの犬をみて。
- PG 2-3: We like this dog. 私たちはこの犬が好き。
This is a little dog. これは小さな犬。
- PG 4-5: We like this dog. 私たちはこの犬が好き。
This is a big dog. これは大きな犬。
- PG 6-7: We all like this dog. 私たちはみんなこの犬が好き。
This is the top dog. これが一等いちおうの犬。
- PG 8: We like Floppy best of all. 私たちはフロッピーフロッピーが一番好き。

★“dog” “cat” “monster”などの題をきめて、みんなでそのテーマにそつたイラストを描いて、コンテストを開きましょう。イラストが完成したら、“I like this ---” “This is ---”のように、意見を言い合い、入賞者を決めて、メダルをあげましょう。生徒たち的人数が多い場合は、いくつかのグループをつくり、それぞれのグループごとのコンテストの結果をみんなに発表させてもよいでしょう。

Look After Me 私の面倒を見て

ビフとチップが遊園地で遊んでいると、そこへウィルマが小さな女の子を連れてやってきました。「ケイトっていうのよ」とビフたちに紹介してくれました。ケイトは遊びざかりで元気いっぱい！「これが好きなの」と言いながらネットを高いところまでよじ登ったりすべり台を勢いよくすべり降りたり、あちらこちらを元気よく飛び回るのでチップたちはハラハラしてしまいます。ケイトを見守ることにチップたちがだんだんくたびれてきた頃、ケイトも遊びつかれたのかお昼寝を始めました。「わたしたちはこれがいいや」すやすやとベビーカーの上で寝息をたてるケイトをのぞきこみ、ほっとしながら、チップたちは言いました。

- PG 1: This is Kate. これはケイト。
- PG 2-3: She went up the net. ケイトはあみをのぼった。
 "I like this," she said. 「私はこれが好き」と言った。
- PG 4-5: She went on the slide. ケイトは滑り台をすべった。
 "I like this," she said. 「私はこれが好き」と言った。
- PG 6-7: She went up the ladder. ケイトははしごをのぼった。
 "I like this," she said. 「私はこれが好き」と言った。
- PG 8: "We like this," said Biff. 「私たちはこれが好き」ビフが言った。

★ ここでは“I like this.”の練習です。遊園地などの絵を見せながら、“Do you like this?”と聞きながら、自分の意思をはっきり言えるようにするといいいでしょう。できれば“Yes, I do.” や“No, I don’t.”もいえるようになるといいいでしょう。食べ物で、好き嫌いを話してもいいですね。

Go on, Mum! 行け、ママ！

軍隊の訓練場の敷地でお母さんたちの障害物レースが開かれました。キッパーたちのママやウィルフたちのママも出場しているので、子どもたちはパパと一緒に応援にやってきました。会場の広い芝生には赤いスウェットの上を着て、運動靴の靴ひもをしっかりと結んでいるママ。そんなママにキッパー、ビフ、チップが声援をおくっています。さあ、レースのスタートです。笛の合図と同時に、出場者のお母さんたちがいっせいに飛び出しました。池の上の丸太を渡ったり高いネットをよじのぼって超えたりしながら一等賞を競います。「行け！ママ」「がんばれ！ママ」大勢の応援客に混ざって、子どもたちやパパが熱い応援の声をあげると、ママもはりきって返事をします。「行くわよ！」大はりきりでママはゴールを目指し、今度は泥水の水路にやってきました。ここでは、兩岸を結ぶ橋のように材木が何本も渡されていて、その下をくぐりながら進みます。ところがこの材木がとても低い高さに渡してあるので、ママたちはそこをくぐるたびに泥水のなかに一回沈まなければならないのです。うっかり飲み込んでしまった泥水を苦しそうに吐き出している人もいます。鼻から泥水が入らないように鼻を片手でつまみながら勇敢に突き進むママでしたが……陸に上がったママはもうこのレースがイヤになっちゃったみたい。「もう行かないわ！」運動靴を脱いで、中に入り込んだ泥水を出しながら、ママはプリプリした様子で言うのでした。

- PG 1: "Go on, Mum," said Chip. 「ママ、行け」とチップが言った。
- PG 2-3: "Go on, Mum," said Biff. 「ママ、行け」とビフが言った。
"I am going," said Mum. 「行っているわよ」とママが言った。
- PG 4-5: "Go on, Mum," said Kipper. 「ママ、行け」とキッパーが言った。
"I am going," she said. 「頑張っているわよ」とママが言った。
- PG 6-7: "Go on, go on," said Dad 「行け、行け」とパパが言った。
"I am going," said Mum. 「行っているわよ」とママが言っ
た。
- PG 8: "I am not going again." 「もう行かないわ」

★ 指ずもう・腕ずもうごっこはどうでしょう。2組のチームに分かれ、同じチームの仲間に、‘Go on,(名前)’、‘Go on,(名前)’と応援ごっこをしましょう。また、普段TVでスポーツ観戦をする時にも好きなチームに“Go on”と声援を送ってみましょう。

Go Away, Cat 向こうに行きなさい、ねこ

お天気の良い日でした。キッパーとビフとチップがリビングルームから庭の方をみると、一匹の猫が芝生の上で気持ちよさそうにお昼寝をしているのが見えました。でも、その庭にはもうじきキッパーたちの愛犬、フロッピーがやってくるのです。猫がフロッピーに吠えられたり追いかけられたりしたら大変！子どもたちはフロッピーがやってくる前に猫を庭から追い出すことにしました。まずはビフが庭に出て猫に言いました。「あっちへ行って、猫ちゃん」でも猫は面倒くさそうにまぶたを動かしたただけでした。次にキッパーが出てきて言いました。「あっちへ行って、猫ちゃん。犬がくるよ」でも猫は動いてくれません。そこで今度はチップがでてきて言いました。「あっちへ行ってよ、猫ちゃん。大きな犬がきちゃうよ」でも猫はおかまいなしのそぶりです。そうこうするうちに、ドアのところにフロッピーが姿を現しました。ビフとキッパーも心配そうに様子を見守っています。「あっちへ行ってったら、猫ちゃん。フロッピーがくるよ」子どもたちが言いました。その時です。猫に気づいたフロッピーが、猫をめがけて一直線に駆けだしました。さあ、大変！……ところが、あらあらどうしたことでしょう。猫は背中を丸めてすごいけんまくでフロッピーを威嚇したのではないですか。驚いたのはフロッピーです。さっきまでの勇ましい顔はどこへやら、一目散に逃げ出しましたとさ。

PG 1: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

PG 2-3: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

A dog is coming. 犬がこっちに来るよ。

PG 4-5: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

A big dog is coming. 大きな犬がこっちに来るよ。

PG 6-7: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

Floppy is coming. フロッピーがこっちに来るよ。

PG 8: Oh no! あらまあ！

★猫とフロッピーの役とに分け、“Go away, Little cat.”を歌のようにくりかえし、いい方を覚えましょう。もちろん子ねこは、最後に強そうに毛を逆立てて一声鳴くと、フロッピーはキャンキャン逃げるのですよ。